

大分市埋蔵文化財調査年報 2

－ 平成 2 年 度 －

1991

大分市教育委員会

大分市埋蔵文化財調査年報 2

－ 平成 2 年度 －

1991

大分市教育委員会



石棺検出状況（久原遺跡）

序 文

本年報は、平成2年度に実施しました市内における埋蔵文化財の調査成果の概要を収録するものです。

最近の埋蔵文化財の新発見にはまことに目を見張るものがあり、興味と関心がとみに高まっていますが、市内の遺跡におきましても、県下というまでもなく、日本の古文化解明に新しいページを加えなければならないような貴重な成果を少なからずあげてきています。

東九州の中核都市として躍進する郷土大分を誇りに思い、文化の香る新しい都市（まち）づくりを進めていく上で、この年報が多くの方々に広く活用されますよう期待をいたしますとともに、文化財の保護に向けて、今後、いっそうのご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成3年12月31日

大分市教育委員会

教 育 長 安 東 裕

例 言

1. 本書は大分市域において大分市教育委員会文化財室が平成2年4月1日から平成3年3月31日の間におこなった埋蔵文化財に関する事業内容をまとめた年報である。
2. 平成2年度における調査地点は表2および第3図に示している。
3. 本書の執筆は第Ⅲ章 発掘調査内容の概要の項を各担当者がおこない、文末に執筆者名を記している。また、第Ⅳ章を除く他の部分については坪根が担当した。
4. 第Ⅳ章 受贈図書目録は、平成2年4月1日から平成3年3月31日の期間中に大分市教育委員会文化財室に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第Ⅳ章 受贈図書目録の作成は佐藤小夜（大分市教育委員会文化財室主任）と佐藤玲子（大分市教育委員会文化財室臨時職員）による。
6. 遺構・遺物の実測、図版の作成等において、渡辺里美・瀧野玲子・西嶋スミエ・三重野八重子・松村千里・釘宮香苗・町田ゆかり・井口あけみ・本室初代（以下大分市教育委員会文化財室臨時職員）の協力を得た。
7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影した。
8. 本書の編集は横岐・坪根がおこなった。

目次

第1章	大分市教育委員会社会教育課文化財室概要	1
第2章	平成2年度事業概要	3
1	開発事前審査事業	3
(1)	平成2(1990)年度の概要	3
2	発掘調査事業	5
3	報告書等刊行事業	7
(1)	報告書刊行事業	7
(2)	資料整理事業	7
4	教育普及活動	7
(1)	遺跡現地見学会	7
(2)	講師の派遣	8
(3)	体験発掘(歴史資料館ジュニア講座)	8
第3章	発掘調査内容の概要	9
	・下郡遺跡群B区g-14地点	9
	・下郡遺跡群D区m・n-17・18地点	11
	・下郡遺跡群E区O-12・13地点	13
	・久土遺跡	15
	・上野遺跡	17
	・久原遺跡	19
	・園遺跡	21
	・旦野原横穴墓群	23
	・城南遺跡	25
第4章	受贈図書目録	27

挿入目次

第1図	地区別事前審査内容	3
第2図	地区別事前審査割合(面積比)	4
第3図	平成2年度調査遺跡位置図	6
第4図	体験発掘(歴史資料館ジュニア講座)	7
第5図	体験発掘(歴史資料館ジュニア講座)	7
第6図	調査区全景(東から)	9
第7図	遺物出土状況	9
第8図	遺物出土状況	9
第9図	竈付山土状況①	9
第10図	竈付山土状況②	10
第11図	弓山土状況	10
第12図	島山土状況	10
第13図	勝手塚出土状況	10
第14図	遺構配置図(1/240)	11
第15図	出土土器実測図(1/6)	12
第16図	遺構配置図(1/160)	13
第17図	井戸断面実測図(1/40)	14
第18図	竈付山土状況	14
第19図	1号井戸横山土状況	14
第20図	SK01全景	15
第21図	遺物出土状況	15
第22図	久土遺跡の位置と周辺の遺跡	16
第23図	SK02全景	16
第24図	SK02遺物出土状況	16
第25図	SK08軒丸瓦山土状況	18
第26図	SK03遺物出土状況	18
第27図	SK08集石状況	18
第28図	SD01北側より望む	18
第29図	1号石槽	19
第30図	上坂墓遺物出土状況	19
第31図	久原遺跡出土土器実測図	20
第32図	久原遺跡出土土器実測図	20
第33図	調査区全景	21
第34図	上製模造山土状況	21
第35図	園遺跡遺構配置図(1/240)	22
第36図	分布図	23
第37図	第2号墓	24
第38図	第3号墓	24
第39図	横穴墓実測図	24
第40図	第52号土壇	26
第41図	第1号墓穴住居	26
第42図	南側全景	26
第43図	方形周溝遺構	26
第44図	第42号土壇	26
第45図	第42号土壇 山上盛土土器	26

表目次

表1	開発事前審査件数の推移	4
表2	平成2年度発掘調査地一覧	5
表3	遺跡現地説明会開催一覧	8
表4	講師派遣一覧	8

第 I 章

大分市教育委員会社会教育課文化財室概要

1. 沿革

昭和51年 4月1日

昭和59年 6月28日

大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置

大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組

2. 組織

社会教育課	課長	山内	村田	晃悟	(平成3年度～)
文化財室	室長	内野	田尻	文政	
	主査	長幹	政和	博文	
	主査	是	永藤	英藏	(平成3年度～)
	主任技師	佐藤	良小	藏夜	
	主任技師	讚岐	和光	夫司	
	技師	塔鼻	根伸	也	
	技師	坪根	池邊	千太郎	

大分市文化財室設置規則（抜粋）

昭和59年 6月28日教育委員会規則第5号

改正昭和62年 9月29日教委規則第16号

（設 置）

第1条 文化財行政の円滑な推進を図るため大分市文化財室（以下「室」という。）を設置する。

（組 織）

第2条 室は、教育委員会事務局社会教育課に所属するものとする。

（分掌事務）

第4条 室の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 文化財調査委員に関すること。
- (2) 文化財に関すること。
- (3) 文化財保護思想の普及啓蒙に関すること。

附 則 抄

（施行期日）

1 この規則は、昭和59年7月1日から施行する。

附則（昭和62年教委規則第16号）

この規則は、昭和62年10月1日から施行する。

3. 大分市文化財調査委員会

大分市文化財調査委員会委員（平成2年4月1日現在）

	【氏 名】	【勤務先・職名】	【担 当】
委員 長	佐藤 真 一	やまばと幼稚園・園長	動植物
副委員 長	橋本 操 六	大分県総務課・参事	中世
	北野 隆	熊本大学・教授	建造物
	日高 稔	大分県教職員第二課・参事	地質・鉱物

橘西	別府	昌元	信口	別府大学・教授	考古埋蔵
豊田	像永	寛健	三一	広島大学・助教授	古
宗像	永泊	尚立	子矢	大分大学・教授	代
友小				大分県立芸術会館・主任研究員	近
				大分県立芸術会館・主任学芸員	世
				大分県総務課・主幹	美
					工
					民
					俗

大分市文化財調査委員会条例

昭和51年3月29日条例 第4号

(設置)

- 第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、大分市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に大分市文化財調査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

- 第2条 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議する。

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、10人以内とし、学識経験者のうちから教育委員会が委託し、又は任命する。

- 2 委員は、非常勤とする。

(任期)

- 第4条 委員の任期は、2年とし、その欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

- 2 委員長は、委員会の会務を総理する。

- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

- 第6条 会議は、必要に応じ、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

- 第7条 委員会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

(庶務)

- 第8条 委員会の庶務は、教育委員会社会教育課において処理する。

(委任)

- 第9条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和51年5月1日から施行する。

第 II 章

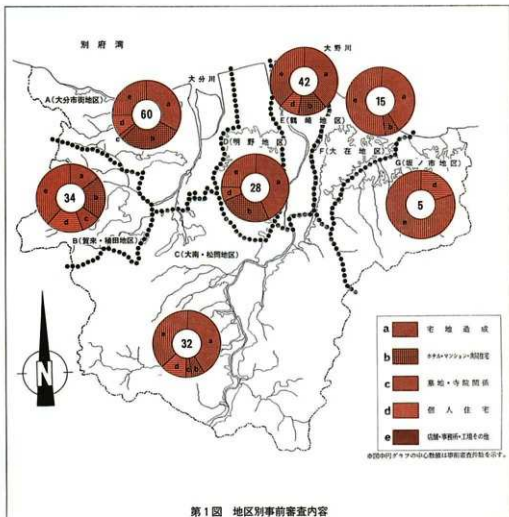
平成 2 年度事業概要

1. 開発事前審査事業

(1) 平成 2 (1990) 年度の概要

新規水源(水利権)の確保に起因する宅地開発事業の規制緩和に伴う大規模開発の急増は平成 2 年度においても上昇傾向を示し、事前調査の件数を必然的に増加させる結果となっている。現在、文化財室では開発申請の受理後、申請地点を過去の調査データ等に照会する段階(書類審査)→現地における状況確認(現地踏査)→試掘調査→本調査というステップフローにより開発と文化財保護との調整をはかっている。

平成 2 年度の申請件数をみると、件数総計で、235 件にのぼり、申請件数 180 件であった対平成元年度比率は 130% におよんでいる。これを申請面積比で比較してみると、平成元年度・1,521,740.72㎡に対して、平成 2 年度は実に 4,751,059.442㎡と約 3 倍に

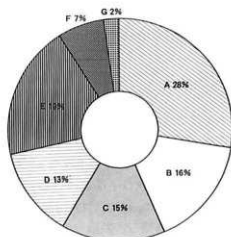


アップするといった異常な状況を呈するに至っている。

この要因としては、前年度から引き続き大規模な宅地造成の増加もさることながら、上記申請面積中大きな割合を占めるものとしてゴルフ場建設に伴うものが注視され、申請面積の急増に大きく作用しているといえよう。平成2年度だけで4件のゴルフ場関連開発申請が提出されており、

このような傾向は次年度以降も継続的に推移するものと懸念され、遺跡密集地におけるこのような開発に対する対策・対応が今後願望されることになる。

今年度の開発内容の詳細を概観すると、Bブロック(賀来・植田地区)・Eブロック(鶴崎地区)・Fブロック(大在地区)における申請件数の増加が目立つ。これらはいずれも土地区画整理事業などの進捗に伴う道路網の整備成果の結果と理解され、以後順次増加傾向を示していくものと予想される。



第2図 地区別事前審査割合(面積比)

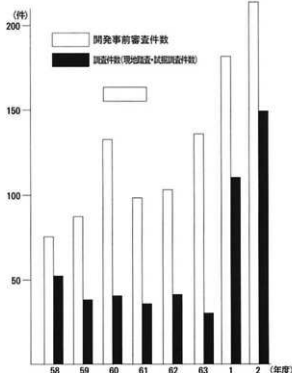


表1 開発事前審査件数の推移

平成2年度
事業概要

2. 発掘調査事業

本年度は試掘確認調査12件、本格調査13件を実施した。

試掘確認調査はその9割以上が民間開発に伴うものであり、試掘対象面積の大規模化が目立つ。本格調査は13件実施しているが、その内訳をみると、公共事業10件、民間事業3件を数える。民間開発に伴う調査については調査番号9007・城南遺跡等にみられるように広範囲におよぶ宅地造成関連の調査が惹起し始めており、今後このような調査事例の増加が予想される。

以下においては、本年度(平成2年度)の発掘調査の成果を概観しておきたい。

弥生時代の遺構・遺物は下郡遺跡群を中心に検出されており、注目すべき内容を提示している。BⅩg-14地点は大阪県教育委員会が昭和63年度に調査を実施した「下郡桑苗遺跡」に隣接し、多量の上器、石器とともに木器、動物遺体等が検出されている。これらのうち、動物遺体の中には非常に保存状態の良好なものが多数含まれており、「下郡桑苗遺跡」において提起された「弥生時代の家畜動物遺体存在」の検証資料として重要である。

久原遺跡は砂丘上に展開する弥生時代中期の祭祀遺跡であり、当該期の祭祀・葬制形態を考究する上で貴重な資料を提供した。また、従来、資料の欠落から不明瞭であった弥生時代中期の上器様相の一端を今回検出された多くの完存資料で補完することが可能であり、その資するところには計り知れないものがある。

表2 大分市平成2年度発掘調査地一覧(試掘調査を含む)

調査番号	遺跡名	所在地	地種	調査面積	調査原因	調査期間	担当調査員
9001	下郡遺跡群	大分市大字下郡	A		区画整理		
			"	700㎡	"	9005~9006	讃岐和夫
			"	900㎡	"	9005~9009	坪根伸也
			"	450㎡	"	9008~9010	讃岐和夫
			"	400㎡	"	9010	池田千太郎
			"	791㎡	"	9004	坪根伸也
			"	210㎡	"	9006~9008	讃岐和夫
			"	53㎡	"	9010	坪根伸也
9002	久土遺跡	大分市大字久土	G	1000㎡	圃場整備	9004~9007	塔原光司
9003	上野遺跡	大分市大字上野	A	810㎡	宅地造成	9007~9008	池田千太郎
9004	久原遺跡	大分市大字久原	G	1000㎡	市営住宅	9008~9011	塔原光司
9005	園遺跡	大分市大字相模	A	1000㎡	街路整備	9011~9012	坪根伸也
9006	日野原清水集居	大分市大字日野原	C	4畝	宅地造成	9004	池田千太郎
9007	城南遺跡	大分市大字永興	A	10000㎡	宅地造成	9012~9104	讃岐和夫
(試掘調査)							
		大分市大字豊野	C	400㎡(5000㎡)	宅地造成	900410~0411	
		大分市大字関分	B	21㎡(120㎡)	宅地造成	900529	
		大分市大字羽屋	A	21㎡(1000㎡)	宅地造成	900612	
		大分市大字上野	A	150㎡(1000㎡)	宅地造成	900605~0608	
		大分市大字関川	B	12㎡(5000㎡)	宅地造成	901005	
		大分市大字玉沢	B	(4453㎡)	宅地造成	901003	
		大分市大字津守	A	(1000㎡)	宅地造成	901218	
		大分市大字猪野	D	(53712㎡)	共同住宅	900129	
		大分市大字野田	B	280㎡(7000㎡)	公園	900219~0221	
		大分市大字中尾	B	(1300㎡)	宅地造成	900301	
		大分市大字小池原	D	(12000㎡)	宅地造成	900226	
		大分市大字永興	A	(200㎡)	宅地造成	900314	

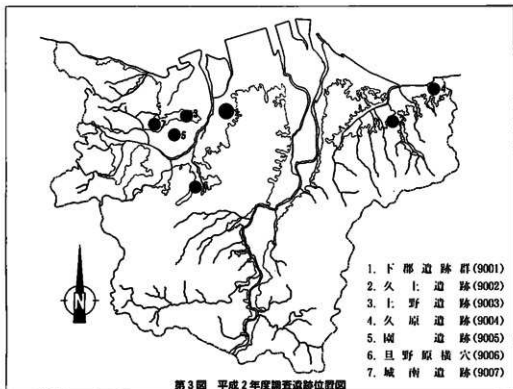
＜平成2年度発行報告書＞

- ・「大分市野田文化財調査報告書」平成元年～1990 大分市教育委員会
- ・「上野遺跡」金澤宮成方面における発掘調査報告書 1990 大分市教育委員会
- ・「下郡遺跡群」大分市下郡地区に広がる弥生時代に伴う発掘調査概観 1991 大分市教育委員会

弥生時代中期後半期の資料としては城南遺跡の資料がある。この調査は当該期の集落を広範囲にわたって捕捉した事例として評価され、単一時期の弥生集落の構造解明の一助となろう。

古墳時代の遺構・遺物は、岡遺跡で集落の一部を確認した他、旦野原において4基の横穴墓を調査した。岡遺跡では5世紀に帰属すると推察される祭祀関連遺物の出土が認められるなど注目すべき成果をあげている。

奈良時代から平安時代に比定される遺構・遺物の出土は、城南遺跡、下郡遺跡群、久上遺跡で確認されている。城南遺跡では方形の周溝遺構を検出し、内部から該期の須恵器数点の出土を認知した。当遺構は出土遺物、遺構の形態などから祭祀遺構とも考えられるが、性格等の究明に関してはさらなる検証が不可欠であり、今後の整理・研究の動向に委ねられることになろう。下郡遺跡では該期の井戸跡を検出した。同遺跡群内においてはこれまでも2例、井戸・水溜部に木枠を有する大規模な井戸跡検出事例があるが、今回のものは、4枚の板材を方形に組み合わせたものを3段に配置した木枠をもつもので、これまでのものとは形態的に異なる。下郡遺跡群内においてはこれらに付随する建物跡も数例確認されており、当地に所在する古代建物群の早急なる性格解明が囑望され、今後の調査の展開が注視されるところといえよう。



3. 報告書等刊行事業

本年度は4遺跡の資料整理と下記の調査報告書を刊行した。

(1) 報告書刊行事業

「下郡遺跡群」－大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(2)

1991年 大分市教育委員会

「上野遺跡」－金剛宝戒寺東側における発掘調査報告書－

1990年 大分市教育委員会

大分市埋蔵文化財調査年報1－平成元年度－ 1990年 大分市教育委員会

(2) 資料整理事業

本年度は前述の報告書刊行に伴う資料整理の他、以下の4遺跡の資料整理を実施した。

〔調査番号〕	〔遺跡名〕	〔所在地〕
9002	久土遺跡	大分市大字久土
9004	久原遺跡	大分市大字久原
9005	園遺跡	大分市大字羽屋
9007	城南遺跡	大分市大字永興

4. 教育普及活動

(1) 遺跡現地見学会

本年度は下郡遺跡・園遺跡において3件の遺跡現地見学会を開催した。下郡遺跡では下郡桑苗遺跡の隣接地点において滝尾小学校歴史研究クラブの参加による見学会を実施した。当地点からは土器、石器の他、多数の木器、動物遺体、植物遺体が出土し、体験発掘等も併せておこなった。園遺跡は古墳時代から近世にかけての複



第4図 体験発掘(歴史資料館ジュニア講座)



第5図 体験発掘(歴史資料館ジュニア講座)

合遺跡であり、各遺構の概略説明後、調査事務所内において遺物の検討会をおこなった。

表3 遺跡現地説明会開催一覧

調査番号	遺 跡 名	所 在 地	開 催 日	参加人数	
9001	下郡遺跡群	大分市大字下郡	平成2年8月16日	約20名	滝尾小学校歴史研究クラブ
9005	園 遺 跡	大分市大字羽屋	平成2年12月4日	約12名	大分県市町村埋蔵文化財担当職員連絡協議会
9005	園 遺 跡	大分市大字羽屋	平成2年12月8日	約20名	大分大学考古学同好会他

(2) 講師の派遣

今年度はコンパルホール、グリーンカルチャーセンター、大分市歴史資料館主催の歴史講座（郷土史講座）に以下の日程・内容で埋蔵文化財担当職員を派遣した。

表4 講 師 派 遣 一 覧

開 催 日 時	チ ー ム	受講者数	派遣職員数	場 所
平成2年6月19日	「大分のあけぼの1」	約40名	1名	グリーンカルチャーセンター
平成2年6月20日	「大分市の埋蔵文化財」	約70名	1名	コンパルホール
平成2年7月14日	「大分のあけぼの2」	約40名	1名	グリーンカルチャーセンター
平成2年8月22日	「発掘に学ぶ」	約70名	1名	コンパルホール
平成2年9月22日	「大分地方の発掘調査概要」	約60名	1名	歴史資料館
平成2年10月24日	「土器を作った人々」	約70名	1名	コンパルホール

(3) 体験発掘（歴史資料館ジュニア講座）

平成2年7月24日、下郡遺跡において小学生を中心とした体験発掘の受け入れを実施した。本事業は大分市歴史資料館が主催するジュニア講座の一環として企画されたものであり、19名の参加による実地体験発掘をおこなった。

対象地である下郡遺跡群B区8-14地点は弥生時代前期末を中心とする遺物を内包する流路跡であり、土器、石器の他、木器や動物遺体など多彩な遺物が出土している。

第Ⅲ章

発掘調査内容の概要

1	下郡遺跡群 B区g-14地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		坪根伸也	900㎡	90.05～90.09	A

調査は大大市大字下郡地区における土地区画整理事業に伴う事前調査の一環として実施した。

今回の調査地点は区画整理対象地域のほぼ中央に位置し、昭和63年度に大分県教育委員会が調査を実施し、「弥生時代の家畜動物遺体」を我が国で最初に認識した「下郡桑苗遺跡」の北方約50mの地点に相当する。調査は約900㎡について行い、調査区の西側半分に弥生時代前期末に比定される流路跡を、東側には溝状遺構、土壌等を検出している。

流路跡は15m×αの規模を有し、流路内堆積土層第Ⅲ・Ⅳ層を中心に多量の遺物を出土している。遺物には、弥生時代前期末を中心とする土器、石器の他、木器、動物遺体、植物遺体等の出土が認められ、出土遺物の内容は多彩なものとなっている。出土土器はいわゆる「下城式」と呼称される甕形土器が主体を占めるものの、瀬戸内系土器の出土も少なからず認められる。また、これらの弥生土器に混在した状況で縄文時代後期に比定できる土器（北久根山式土器等）の出土も確認され、当該期の遺構が近隣に存在することを示唆している。

木器には、鋤、鋤等の農耕具の他、太型蛤刃石斧の柄、柱状片刃石斧の柄などの伐採・加工具、木製容器、用途不明木製品等出土がみられる。農耕具の中で出土の



第6図 調査区全景（東から）



第7図 遺物出土状況



第8図 遺物出土状況



第9図 頭骨出土状況①

中心となっている平鎌は比較的小型で柄接合部分にほとんど隆起部を有しないタイプのものが主体を占める。このような組成は他地域には類例が乏しく、特異なものといえよう。また、舟を模造したと推定される舟形木製品が出土した他、方形透かし入りの脚付容器、くりぬき容器の未製品などの出土により、当時の舟構造を推慮する好資料となるばかりではなく、各種木製品の製作工程にまで言及することが可能になった。

動物遺体としては、「下郡桑苗遺跡」において家畜動物遺体と認知されたものと同種・同類の骨の出土が多量に認められ、遺存状態も非常に良好な状態で出土した。分析・同定の報告結果を待たねばならないが、確実に弥生時代の動物遺体資料の蓄積を達成することができ、「下郡桑苗遺跡」での検証資料の不足を補い得るものと期待される。

東側に展開する生活面で確認された遺構には溝状遺構、土壇、柱穴等がある。

溝状遺構は2本確認されているが、1号溝状遺構としたものは断面形がV字形を呈し、前述の流路跡へ延びている。埋土内部にはいわゆる「下城式」甕形土器破片を少量内包し、当溝の所産時期を示唆している。土壇には方形を呈するものと円形を呈するものの2者が存在し、後者には断面形状がフラスコ状を呈していた痕跡を認めることができる。当該時期の集落跡はさらに東側に展開しており、今後の周辺調査の進展により今回検出された流路跡と集落との空間的な位置関係がより鮮明に把握できるとともに、両者の有機的関連性の有無を含めた集落配置の解明が期待できよう。(坪根伸也)



第10図 頭骨出土状況②



第11図 弓出土状況



第12図 鏃出土状況



第13図 諸手出土状況

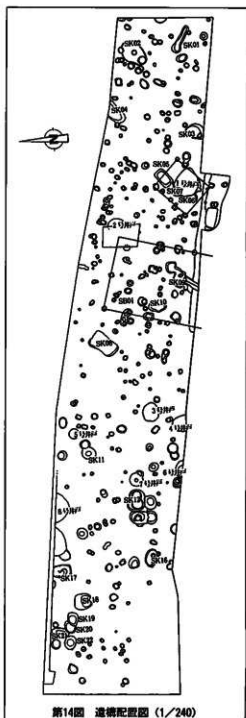
2	下郡遺跡群 D区m・n-17・18地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		巖 岐 和 夫	450㎡	90.08～90.10	A

本調査区は区画街路（庄の原佐野線）の南側に位置する幅6mの街路予定地に相当し、調査は平成2年8月～10月にかけて実施した。

この場所は宅地として利用されていたため、多くの攪乱が認められ、特に弥生時代中期の土器を二次的に一括して廃棄した状況などもみられた。

検出遺構としては、調査区全面に円柱状の柱穴が多く掘られており、建物遺構の存在を推察することができた。この他に素掘りの井戸が大小9基と土壇19基が多数検出されている。遺物を唯一出土した1号井戸(SE01)は径1.6m、現状での深さ1.7mを測り、平面形は円形を呈している。この井戸の四隅には角状柱穴があり、井戸上部に屋根等の構築物の存在を推定することができる。内部には人頭大の礫が投げ込まれており、瓦器鍋の破片、石鍋片、曲物等の遺物が混在状況で出土する。遺物等からみて、13世紀の頃に廃絶したものであろうか。また、弥生時代中期の土器も多く混入していた。

土壇(SK)については、約22基を確認しており、円形、楕円形、長方形を呈する大小さまざまなものが掘られている。SK05の大きさは1.3m×0.8m、深さ0.6mの長方形掘り方でN50°Eに長軸を向けており、勾玉を出土したSK07と重複している。長方形の土壇は土壇墓と考えられる。円形、楕円形を呈するものについては用途不明であるが、弥生時代中期の土器等が多く出土しており、この時期の貯蔵穴等



第14図 遺構配置図 (1/240)

表7

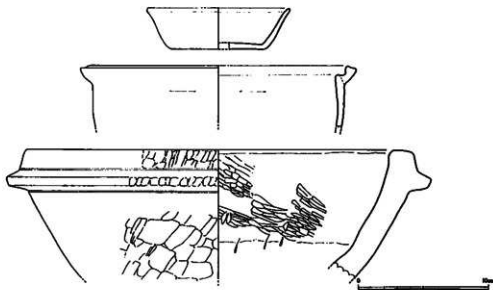
遺物観察表

番号	出土遺構	器 種	胎 土 色 調				器 面 調 整 法				備 考		
			裏面材	粒 子	内 面	外 面	内 面	外 面	口 径	器 高		脚 径	底 径
1	1号井戸	白磁坏	-	-	乳白色 (施釉部分)	乳白色 (施釉部分)	-	-	(10.1)	3.2	-	(7.3)	磁胎は灰 白色口縁 部は施釉 されない
2	1号井戸	瓦質陶	-	-	灰黒色	黒色	ナデ 指オサエ	ナデ 指オサエ	(21.5)	-	-	-	
3	1号井戸	滑石製 石 鍋	-	-	銀灰色	銀灰色	ケズリ	ケズリ	(30.2)	-	-	-	厨付き ケズリ明瞭

の遺構とも考えられる。

調査区全面にみられる円柱状、角柱状の柱穴によって構成される遺構については、調査範囲の制約などで建物配列や全体規模の把握は困難であったが、調査区の中央から東寄りに建物遺構(SB)1棟と柵列を確認できた。建物(SB01)は東西の梁行は2間(4.8m)、南北の桁行は4間+ α (6m+ α)の規模をみた。主軸方位はN10°Eである。その東と北側には柵列状の柱穴もみられた。全体の建物の規模については不明である。建物については周辺調査の機会をまって改めて検討が必要となろう。

大分県
大分市
大分県文化財調査報告書
第11号



第15図 出土土器実測図 (1/4)

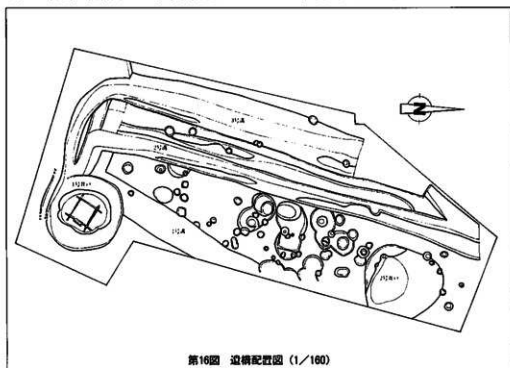
3	下郡遺跡群 E区O-12～13地点	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		巖 岐 和 夫	210㎡	90.06～90.08	A

本調査区は、都市計画道路下郡南北線(幅12m)予定地の事前調査として、平成2年6月～8月8日にかけて約210㎡について実施した。

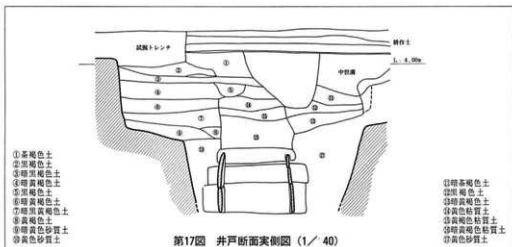
この場所は、すでに南下郡公民館が建てられていた所であるが、遺構の遺存状況は良く、若干の攪乱をみたにすぎなかった。遺構については奈良期の井戸(SE)1基、中世時期の井戸(SE)2基、区画性のある溝(SD)3条、土壇(SK)12基等を確認できた。

奈良期の井戸(SE01)は調査区の南側に位置しており、中世時期の溝3条と重複している。SE01の掘形は2段に掘られており、1段目の大きさ4.2m、現状の深さ90cmの円形掘形、その中央部に2段目の大きさ2.7m×2.2m、深さ1mの楕円形掘形である。その中に幅20～40cm、長さ1.6m、厚さ3～5cmの板を交互に組む井戸枠を据えている。井戸枠は内法約1mで3段分のみが残っており、上部は腐食しているが、下部の遺存状況は良好であった。SE01からの出土遺物は少量であったが、土師器の坏、蓋、甕等で、遺物からみて廃絶時期は8世紀後半と考えられる。また、SE01の木枠については、下郡では初めての出土例であり、前年度調査のくりぬきの木枠井戸2例とあわせて注目される。

中世の遺構については、大小2基の井戸が確認されている。大型の井戸(SE02)は調査区の北側に位置しており、大きさは4m×3.5m、現状で深さ約1.5mで井戸の底部



第16図 遺構配置図 (1/160)



分は南寄りの円形状掘形で、南寄りに人頭大の礫が多量に投げ込まれていた。礫は焼成を受けた凝灰岩が多くみられ、鍛冶に使用した羽口の先も出土した。また遺物については、銭貨「皇宋通寶」が1枚、土師器の坏(糸切底)、瓦器の埴鉢等や長さ約95cmの竪杵が出土した。

小型の井戸(SE03)については径80cmで多量の人頭大の礫がSE02同様に投げ込まれており、完掘することはできなかった。

土壌(SK)については円形を呈するもの11基、方形を呈するもの1基の計12基を確認した。SK03(円形)は長さ1.2m、現状の深さ30cmを測る平均的な形状・形態を示す。SK05(方形)は一辺の長さ1.2m、現状での深さ40cmを測り、遺物として糸切底の土師器の坏2点出土した。この土壌は中世の土壌墓と考えられる。1号溝状遺構(SD01)は幅1.6m、深さ30cmの規模を有しN35°Eの方向に掘られており、N15°Eの方位を示すSD02・03とは方向を異にしている。SD02は幅1.8m、深さ60cm、SD03は幅2m、深さ67cmで、2本とも断面形は逆台形を呈している。また、調査区南側ではこれらの溝状遺構が直角に屈曲する状況がみられ、SD02→SD03の先後関係が認められた。



第18図 竪杵出土状況



第19図 1号井戸検出状況

4 久土遺跡

調査担当	調査面積	調査期間	地域
塔 鼻 光 司	1000㎡	90.04～90.07	G

大分市の東部、九六位山の麓より坂の市に流れる丹生川の作り出す平野部に広がる丹川遺跡のほぼ中央、北に丹生川、東に久土川を見下ろす標高35mの台地上に位置する。

本台地の東側斜面には城下横穴墓群があり、また西2kmには旧石器・縄文時代の丹生遺跡、丹生川をはさんで対岸の台地には弥生時代の一木遺跡等が存在する。本調査は、昨年に続いて2年目であり、前田・久土地区農業基盤総合整備事業の調査としては3年目となり、最終年度となる。

調査区は台地南側の緩斜面に位置する。後世の整地等により、北側部分は削平が進んでおり、遺構検出状況も良いものとはいえなかったが、南側部分については掘立柱建物4棟、一辺約7mの竪穴遺構などが検出された。特に、竪穴遺構からは7世紀末から8世紀初頭にかけての須恵器や土師器が多量に出土している。

SB01

2間×5間(5.8m×12.5m)、柱穴平均直径0.9m、長軸は南北方向。

SB02

削平により現状では2間×3間(3.9m×5.6m)検出したが、まだ長軸方向に伸びるものと思われる。柱穴平均直径0.5m、長軸は東西方向でSB01に直交する。

SB03

削平により長軸の北側のみ検出、現況から長軸方向は5間(10.3m)と思われる。柱穴平均直径0.8m、長軸は東西方向でSB01に直交する。

SB04

2間×4間(5.2m×7.6m)、柱穴平均直径0.5m、長軸は東西方向でSB01に直交する。

4棟とも一定の方向性をもっていることから、同時期あるいは関係のある掘立柱建物群と思われる。削平等により、時代を同定できるような遺物は発見されていないが、前述の竪穴遺構との関係が注目される。



第20図 SK01全景



第21図 遺物出土状況



1. 久土遺跡 2. 城下横穴古墳群 3. 新光遺跡 4. 野間古墳群 5. 地藏原遺跡 6. 屋宗横穴古墳群 7. 大在古墳
8. 浜遺跡 9. 城原横穴墓群 10. 城原天満社裏古墳 11. 大蔵古墳 12. 湯ノ尻古墳 13. 辻古墳 14. 亀塚古墳
15. 飛山横穴古墳群 16. 関下横穴古墳群 17. 上ノ坊古墳

第22図 久土遺跡の位置と周辺の遺跡



第23図 SK02全景



第24図 SK02遺物出土状況

5 上野遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	池 邊 千 太 郎	840㎡	90.07～90.08	A

上野遺跡は大分県大分市上野丘2丁目に所在する。遺跡の存在する上野丘陵面は大分川によって形成された河岸段丘であり川に沿って東西に地形が発達し標高35m程の低い段丘面を形成している。

調査に至る経過としては民間業者の宅地造成が計画され、平成2年5月に事前の文化財調査のため職員派遣を依頼された。このため大分市教育委員会では、平成2年6月5日より3日間、試掘調査を実施した。その結果、トレンチ全体より古代から中世における遺構・遺物を検出した。このため大分市教育委員会では業者との間で協議を行った結果、発掘調査を平成2年7月9日より開始するに至った。

発掘調査の対象面積は840㎡に及び、検出された遺構としては、調査区の西側において南北に延びる溝状遺構（SD01）、これに直交するように東西に延びる字境いの石列（SD02）、井戸（SE01）が北側に1基、土壇が22基である。

SD01は調査区の南側を東西方向に走る溝状遺構である。遺構は、南・北側ともに調査区外に延びており、確認される長さは19mを測る。遺構内には、人頭大の河原石が大量に検出され、これに混じって室町時代の軒先瓦・軒丸瓦・平瓦・備前産の摺鉢、土師質土器の坏などが出土している。

SD02は調査区の南側を東西にほぼ一直線に走り、東西方向共に調査区外に延びる。遺構の長さは調査区内で東西23.5m、幅0.5～0.7mを測る。掘り方は逆台形で、東西に掘り込まれた部分に人頭大の河原石を一列に並べた状態で検出された。遺物は近世の平瓦が出土している。

SE01は調査区の中央部北側に位置し、平面形態は不整の円形を呈する。上面の規模は、長径を南北に2.5m、短径を北東－南西方向に1.8mを有する。遺構の掘り方は、上部より約1m前後が摺鉢状に開いており、下部は『U』字状に掘削されている。そして、上部と下部との途中に段的な構造を設けている。遺物の中で注目されるものとして瓦当部が均整唐草模様の退化した要素をもつ軒平瓦である。この瓦の軒の部分は段顔になっており厚さ4.5cm程である。凸面は横方向に平行櫛掻き（2cm内におよそ12本）を施し、凹面は布目痕がみられる。この種類の瓦は北側に位置する上野遺跡においてこれまで数点表採されているが時期についてはまだ明白になっていないものである。

土壇の中で特に注目されるのがSK03・08・10・13である。

SK03は平面形態が不整の楕円形を呈し、長軸を東西に2m、短軸を南北に1.15mを測る。床面はほぼ平坦を成し、壁面への立ち上がりは緩やかである。遺物は遺構中央部から5世紀後半代の土師器の壺が1点出土している。

また、SK08・10・11はいずれも平面形がやや楕円形に近い形態を呈し、遺構内に人

頭大の石が多量に検出された。またこれらに混じって室町時代後期の土師質の坏・軒丸瓦・平瓦・備前産の摺鉢などの遺物が出土している。

なお、遺跡内からは弥生時代後期の遺物を伴う土壌も見られる。また、表採遺物の瓦の中には、凸面に格子叩き目痕を、凹面に布目痕を施すものも認められた。

このようにこの遺跡において弥生時代後期より遺構が確認されるものの、遺構の中心は室町時代である。この時期、南北に延びる溝状遺構とその東側に位置する井戸が掘削される。この溝状遺構の性格についてはこれに伴う建物跡を検出していないためはっきりしたことは分らないが、西側は山が迫っており遺跡の広がりの可能性としては薄く、東側に井戸を配置していることを考慮すれば今後東側周辺部において遺構が発見されるものと考えられる。また遺跡内より瓦が出土しているため付近に瓦葺きの建造物が考えられる。土壌の一部（SK08・10・11）はこれより時代がやや下ってこの付近で整地若しくは開墾が行なわれた際に、掘られ、この中に人頭大の河原石や瓦・土師質の坏を廃棄したものであろう。

（池邊千太郎）



第25図 SK08 軒丸瓦出土状況



第26図 SK03 遺物出土状況



第27図 SK08 集石状況



第28図 SD01 北側より望む

6 久原遺跡

調査担当	調査面積	調査期間	地域
塔 鼻 光 司	1000㎡	90.08～90.11	G

本調査は、大分市大字久原字江川339番地外において、大分市営住宅建設にともない、平成2年8月から11までおこなわれたものである。

本遺跡は、大分市東部で北海部郡佐賀関町と境を接する坂の市地区の海岸部に位置する。別府湾を北に望み、数年前までは遠浅の海岸が広がる白砂青松の地であったが、現在では大分県の新産業都市計画に基づき、広大な埋め立てがおこなわれ、また、近年坂の市区画整理事業も進められており、景観は急激な変貌をとげている。

大分県下最大の河川である大野川の東に広がる海岸部は瀬戸内方面にひらけ、古くより数多くの遺跡が存在してきた。砂丘の続く海岸部は弥生～古墳時代にかけて、瀬戸内の影響を受けたと思われる特徴を有した土器を出土している大在浜遺跡や細遺跡、古墳時代では、砂丘上の大在古墳を初め背後の丘陵上には亀塚古墳、大蔵古墳、天満社裏古墳、湯の尻古墳などの前方後円墳や円墳、また、竹下横穴墓群、城原横穴墓群、飛山横穴墓群などの横穴墓群が集中し、県下でも有数な古墳集中地区を形成している。

本遺跡は、市営住宅および駐車場予定地約3,000㎡の内、試掘調査によって遺構が確認された約1,000㎡を調査対象範囲とした。

砂丘上に広がる遺跡の性格上、地山と遺構の区別がつきにくく遺構の検出が困難を極めたが、小型の石棺群、また、集石遺構とそれに隣接して壺形土器・甕形土器・高坏を基本単位とした土器群が検出された。

石棺の中から遺物は検出されなかったが、周りの状況や周辺の土器群が弥生中期に限定されることなどから、この石棺群も同時期と考えられる。

その他の主な遺構としては、中世の土壇墓2基が検出され、その一基からは白磁碗と刀子が確認された。

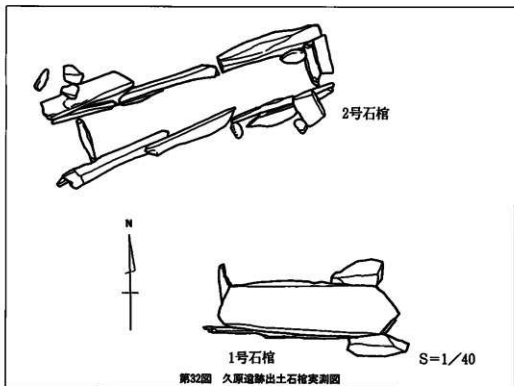
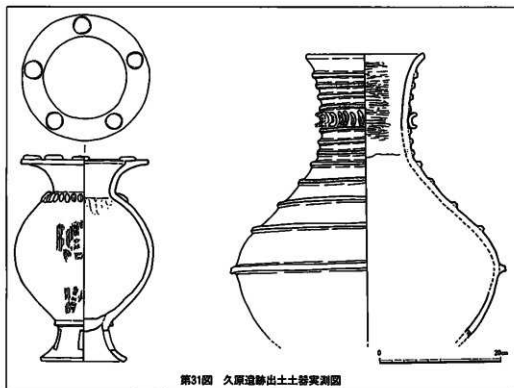
当遺跡は、弥生中期と中世の一時期に墓域として利用している他は、住居跡など集落の痕跡も見られず、この地は古代より墓域、また、聖なる地として利用されていたものと思われる。



第29図 1号石棺



第30図 土壇墓遺物出土状況



7	古国府羽屋地区条里跡所在 園 遺 跡	調査担当	調査面積	調査期間	地区
		坪 根 伸 也	1000㎡	90.11～90.12	A

園遺跡は大分市大字羽屋字園に所在する。当地は古国府・羽屋地区条里跡として古来より周知され、さらには、いまだその所在の判明していない豊後国府の有力な推定地として注視されてきた地域の一角に相当する。

調査は都市計画道路の築造に伴う事前調査として実施された。今回の調査対象地域には、調査着手以前に数棟の家屋が存在しており、これらに付随する家屋基礎、攪乱墳が多数存在し、プライマリーな土層が遺構検出面において島状に分布するといった状況が認められ、遺構検出時には困難を極めた。また、調査対象範囲の西側部分は隣接する寺院に関連すると思われる大規模な攪乱墳（墓地改葬に伴うものか）がかなりの面積を占有しており、遺構はすでに欠失している。

調査の結果、堅穴住居址5軒、溝状遺構2条、井戸跡2基、土壇・柱穴多数を検出することができた。

堅穴住居址に関しては、1～3号住居址において比較的良好な状態で遺物の出土が見られ、ある程度の時期比定を可能にしている。すなわち、1号住居址には5世紀末～6世紀初頭に比定しうる須恵器を内包し、2号住居址は住居プランの遺存状況こそ良好とは言えないまでも、完形復元の可能な須恵器資料を出土し、6世紀中頃の所産である事実を示した。また、3号住居址においては、遺存状況の良好な土師器を床面直上において多数出土しながらも、須恵器をまったく出土しない点、併せて出土土器の形態も他の住居出土のものに比して古い様相を具備している点などから当住居址の帰属年代が1号住居址に先行するものと判断された。

溝状遺構は検出された2条とも、若干方位を異にしながらも、おおむね東西方向に展開する。1号溝は調査区の南端において検出され、検出面での幅0.75m、深さ0.27mを測る小型のもので、埋土中より出土した土師器片からおよそ13世紀の所産である可能性を指摘できる。2号溝は1号溝に比べて規模が大きく検出面での幅1.7m、深さ0.6mを測る。内包する遺物も多彩であり、縄文時代～近世におよぶ遺物を出土



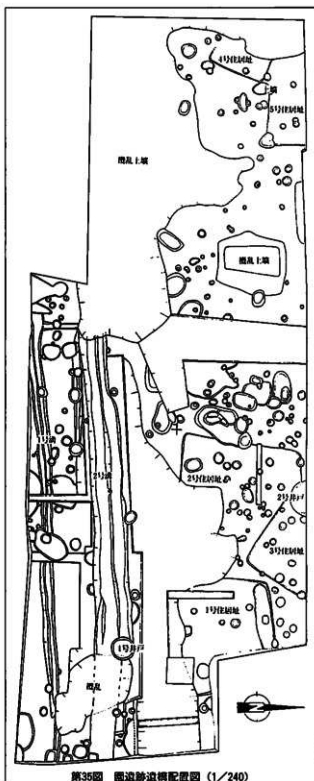
第33図 調査区全景



第34図 土製横造鏡出土状況

する。井戸跡は2基確認しているが、いずれも出土遺物の量が僅少であり、築造時期などを確定づける物証に乏しいが、1号井戸はその切り合い関係から2号溝成立以前に造られていた事実が判明している。土壌には、古墳時代の遺物を出土する1号土壌の他はまとまった遺物の出土を示すものがなく、詳細は不明である。柱穴については、一部に規則的な配列を示唆するような状況が窺えるが、調査範囲の制約等の理由から具体的な建物配置は不明である。

出土遺物は、古墳時代のものである中心に各遺構中から種々出土している。なかでも古墳時代の祭祀関連遺物－石製有孔円盤・滑石製模造品・滑石製小玉・土製模造鏡などは当地における祭祀形態を考究する上で貴重な資料となろう。また、前述の住居内出土遺物は当該期の土器編年構築に際し、有効資料の蓄積達成の一助となろう。



第35図 遺跡跡遺構配置図 (1/240)

8 旦野原横穴墓群

調査担当	調査面積	調査期間	地域
池 邊 千 太 郎	横穴墓4基	90.09	C

旦野原横穴墓群は大分市大字旦野原字叶に所在する。調査は民間の造成工事に伴うものであり、平成2年9月に実施された。

本遺跡は大分川下流域の右岸に位置しており、低い丘陵地形を形成する谷間に分布する。横穴墓は4基が確認されいずれも東側に開口部を設けている。

1号墓は舌状台地の東側斜面にあり、平野部よりやや高い所に位置する。横穴墓の平面形態は不整形を呈しており、長さは羨門より2.2メートルを測る。横穴墓が二次的に使用（近年において倉庫としての再利用）されているため天井部は拡張されていた。このため現状ではアーチ形を呈するものとなっている。なお床面の精査をおこなったが遺物は検出されなかった。

2号墓は開発区域の北東部に位置し、舌状台地の先端部裾にあたる。羨門部は周辺における水田の開墾及び浸食等により現状を留めていなかった。横穴墓の羨門付近が崩壊しているが復元すれば平面形態は隅丸方形を呈していたと思われる。規模は、幅2メートル、残存長1.8メートル程である。

3号墓は開発区域の南側に位置する。横穴墓の羨門及び羨道部分は水田の開墾のために削平を受けている。平面形態はおそらく隅丸方形を呈していたものと思われる。規模を復元すれば幅1.2メートル、長さ1メートル程である。

4号墓は3号墓の上部に位置しており、天井の崩壊により玄室内部は埋没していた。玄室内の上を掻き出した結果、幅2.4メートル、長さ2.8メートルの規模を有する事が確認された。天井は完全に崩壊しているため天井形は不明である。これら4基の横穴墓は早くから削平を受けているため遺構の保存状態は良くなかった。この旦野原横穴墓の形態的特徴としては、いずれも玄室の側壁及び奥壁が垂直に近い状態で立ち上がりアーチ状の天井形を呈するものである。なお、横穴墓の所産時期については遺物が確認されなかったため明白な時期判断をすることができないが、周辺地域における横穴墓の様相と照らし合わせれば7世紀代に造営されたと考えられよう。

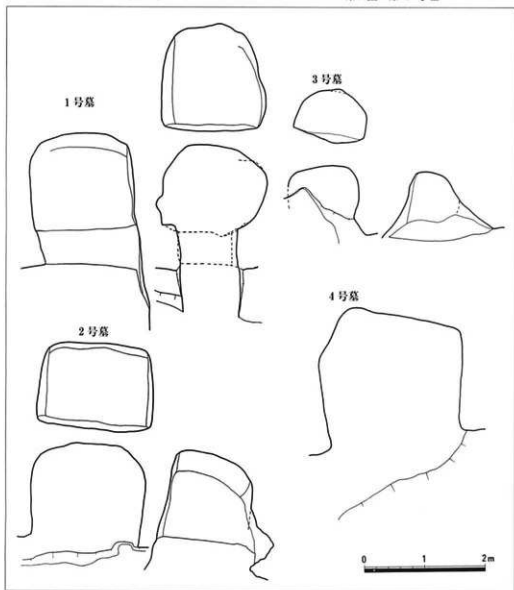




第37圖 第2号墓



第38圖 第3号墓



第39圖 横穴墓実測図

9	城南遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
		讃岐・池邊	10000㎡	90.12～91.04	A

本遺跡は、市街地より南西へ約3kmほどの大分市大字永興字開臺に位置し、標高85メートルを測る庄ノ原台地上の南北約90m、東西約240mの面積約2haにおよぶ、日当たりの良い南下がりの緩やかな斜面に所在している。その南側前方部には大分川が流れ、肥沃な平野を形成している。

遺跡は開発範囲の内、東側の部分及び南側の段落ち部分を除く台地の中央付近を中心として広がりを見せている。最終的に本遺跡からは、住居跡(SH)が10軒、土壇(SK)が60基余り、掘立柱の倉庫(SB)が2棟、円形の周溝遺構が1基、方形の周溝遺構が1基、古代の溝(SD)が1条、近世・近代の溝(SD)が10ヶ所、古代・中世の土壇墓が2基確認された。

住居跡は調査区の中央付近に点在する。このうち、SH01・SH02・SH03・SH08・SH09が円形を成す竪穴住居跡であり、弥生時代中期から後期のものである。このうちSH01は住居跡の直径が6.5メートルを測り、床に柱穴を6カ所確認した。また中央より南側に灰を溜めるための土壇が検出された。

土壇は60基以上が検出されており、その広がりには遺跡全体に分布している。中でも、SK03・SK13・SK38・SK49・SK52からは弥生時代中期の貴重な土器が大量に出土した。

柱穴は遺跡全体に広がっているが遺跡の中央付近には縦横3×3本の正方形を呈する掘立柱の倉庫建物(SB01・SB02)が2棟確認された。その西側より幅60cm程の溝が円形に巡る特種な遺構が検出されている。遺構の直径は8メートルに及ぶ。遺構より確実な時期を押さえることのできる遺物が出土していないために時代及び遺構の性格をつかむには至らなかった。

また調査区の南側にも溝を方形に巡らせた遺構が検出された。遺構の溝は幅1～2メートル、深さ70cmを測り、一辺が12メートルの方形を呈するもので内側にはこれに関連した遺構は認められなかった。溝から出土する遺物より8世紀頃に造られたもので、祭祀的な性格を有する遺構と考えられる。なお方形周溝遺構と同時期(8世紀頃)の溝(SD01)が台地端南斜面で東西方向に掘削している。溝の幅は3メートルを測り、東側に行くに従い消えて行く。その他の溝は調査区の至るところに走っているが、近代・近世などの新しい溝であった。

あと注目する遺構としてはSK42・SK47の土壇墓である。SK42は長さ2メートル、幅80センチ、深さ40センチを測り長方形の形態を呈する。中より、供献のための土師器坏が遺構両端より2点ずつ供えられた状態で検出された。この内の1点から墨によって『西』文字が書かれた墨書土器が出土した。さらにSK47は方形の周溝遺構の溝の一部を掘り込んで造られており供献している土器から中世の墓であることが

判明した。

今回の調査により弥生時代(今から1800～2000年前)の集落、古代の祭祀遺構、土壇墓などが確認された。弥生時代の集落は円形の竪穴式住居を中心にその周辺に穀物用の貯蔵穴を多数配置したものであった。これらの遺構から廃棄された土器が多数見つかり、この時期における土器を知るうえで大変重要な資料となった。また、8世紀代に造られた方形に溝を巡らす遺構が確認され溝から出土している土器より祭祀的(墓・信仰の場など)な性格が考えられるが、周辺に類例がないためさらに検証が必要とされる。なお、9世紀代における土壇墓は長方形に掘り込まれており、この時期における墓の典型的な埋葬方法と形態を呈する。供献している土器に墨書で「西」と思われる文字が書かれており墨書土器は、大分市内では4箇所目の出土であるため大変注目される。



第40図 第52号 土 壇



第41図 第1号 竪穴住居



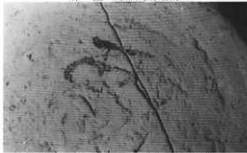
第42図 南側全景



第43図 方形周溝遺構



第44図 第42号 土 壇



第45図 第42号 土壇 出土・墨書土器

第 IV 章 受贈図書目録

1. 調査報告書

北海道

開基 100 年記念誌「目で見る旭川の歩み」 旭川市総務局 1990

宮城県

史跡陸奥国分寺跡陸奥国分尼寺跡保存管理計画書 仙台市教育委員会 1989

福島県

福島県文化財調査報告書 第207集（大村新田遺跡鬼渡 A 遺跡・西窪遺跡予備調査）
福島県教育委員会 1990

新潟県

市史にいがた 6 新潟市 1989

市制 100 周年記念図説 新潟市史 新潟市 1990

栃木県

茂原古墳群 宇都宮市埋蔵文化財調査報告 第28集 宇都宮市教育委員会 1990

茨城県

峠遺跡発掘調査報告書 石岡市教育委員会 1989

峠遺跡確認調査報告書 石岡市教育委員会 1990

群馬県

太田市文化財ガイドマップ 太田市教育委員会 1988

史跡上野国分寺跡発掘調査報告書 本文編 群馬県教育委員会 1989

神奈川県

海老名市図書館特別コレクション 国分寺関係資料図書目録 写真図版編 海老名市立図書館 1990

石川県

平安・鎌倉の古筆 石川県松任市 1990

長野県

諏訪市史 中巻 諏訪市 1988

“ 下巻 諏訪市 1986

千葉県

国立歴史民俗博物館研究報告 第25集 国立歴史民俗博物館 1990

国立歴史民俗博物館研究報告 第26集 国立歴史民俗博物館 1990

国立歴史民俗博物館研究報告 第27集 国立歴史民俗博物館 1990

国立歴史民俗博物館研究報告 第28集 国立歴史民俗博物館 1990

国立民族博物館国内資料調査委員会調査報告書11 国立民族学博物館情報管理施設 1990

臼井田小笹遺跡・曲輪ノ内遺跡（平成元年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書）
佐倉市教育委員会 1990

日本歴史探検 ① れきはく案内 古代を発掘する。	国立歴史民俗博物館 1989
日本歴史探検 ② れきはく案内 中世を歩く。	国立歴史民俗博物館 1989
日本歴史探検 ③ れきはく案内 近世に生きる。	国立歴史民俗博物館 1989
日本歴史探検 ④ れきはく案内 くらしに学ぶ。	国立歴史民俗博物館 1989

東京都

武蔵国分寺関連遺跡の調査 I	武蔵国分寺関連遺跡調査会 1990
小笠原諸島他遺跡分布調査	小笠原諸島他遺跡分布調査会 1990
八王子市郷土資料館年報 昭和63年度	八王子市教育委員会 1990
八王子の歴史と文化 第2号	八王子市教育委員会 1990
八王子千人同心関係文書目録 第3集	八王子市教育委員会 1990
千人頭月番日記(三)八王子千人同心関係史料集 第3集	八王子市教育委員会 1990
石川日記(十二)郷土資料館資料シリーズ 第29号	八王子市教育委員会 1990
北条氏照と八王子城	八王子市郷土資料館 1990
東京大学文学部考古学研究室研究紀要 第8号	東京大学文学部考古学研究室 1989
武蔵国府関連遺跡調査概報(日嗣地区第1次調査)	日本製鋼所遺跡調査会 1990
武蔵国分寺跡調査報告 昭和39年~44年度	国分寺市教育委員会 1987
武蔵国分寺跡発掘調査概報 12	国分寺市教育委員会 1987
武蔵国分寺跡発掘調査概報 13	国分寺市教育委員会 1988
武蔵国分寺跡発掘調査概報 14	国分寺市教育委員会 1989
武蔵国分寺跡発掘調査概報 15	国分寺市教育委員会 1990
国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館年報 No 7	国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館 1989
蔵品図録民芸 FORK ART COLLECTION	国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館 1989
川崎市史研究創刊号	川崎市公文書館 1990
川崎市史資料編 4 下 現代産業・経済	川崎市 1990
武蔵国分寺跡遺物整理報告書 昭和31・33年度	日本考古学協会 1985
人間の美術5 浄土の彼方へ	柳学智研究社 1990
日野市栄町遺跡	日野市栄町遺跡調査会 1990

山梨県

甲府市史研究第8号	甲府市史市史編纂委員会 1990
-----------	------------------

愛知県

東畑庵寺跡発掘調査報告書(Ⅱ)	稲沢市教育委員会 1990
高町畑遺跡発掘調査報告書	稲沢市土地改良区高町畑遺跡発掘調査団 1990
土田関連遺跡発掘調査報告書	名古屋農地改良事務所土田関連遺跡発掘調査団 1989
稲沢市文化財図録	稲沢市教育委員会 1989
猿投神社近世史料編	豊田市教育委員会 1989
牧野義雄展図録	愛知県豊田市 1990

わが理想の英国女性たち	豊田市教育委員会 1990
幼少時代の思出の記	豊田市教育委員会 1990

三重県

鈴鹿市埋蔵文化財調査報告 V (鈴鹿市稲生町稲生東道跡発掘調査報告)	鈴鹿市教育委員会 1975
鈴鹿市文化財調査報告 VII	鈴鹿市道跡調査会 1983
大木ノ輪道跡 市道鈴鹿補線改良工事に伴う埋蔵文化財調査概要報告 9	鈴鹿市教育委員会 1986
鈴鹿市郡山町郡山道跡群発掘調査報告 I	鈴鹿市教育委員会 1987
鈴鹿地方の考古資料	三重県教育委員会 1989
亀山の古墳 埋もれた古代権力	亀山市教育委員会 1988

奈良県

十六面・薬王寺道跡(国道24号線細原バイパス建設に伴う道跡調査報告Ⅲ)	奈良県教育委員会 1988
和爾・森本道跡 II (奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第58個)	奈良県教育委員会 1989
奈良大学考古学研究室調査報告書第13集	奈良大学考古学研究室 1989
日本書紀を掘る	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 1990

和歌山県

和歌山市史第2巻 近世	和歌山市 1989
和歌山市史第3巻 近現代	和歌山市 1990

大阪府

松原市道跡発掘調査概要 (昭和63年度)	松原市教育委員会 1989
八尾市内道跡平成元年度発掘調査報告書 1	八尾市教育委員会 1990
八尾市内道跡平成元年度発掘調査報告書 2	八尾市教育委員会 1990
豊中の文化財	豊中市教育委員会 1989
羽曳野資料叢書 2 羽曳野軍記等史料集	羽曳野市 1990
新修大阪市史第3巻	大阪市 1989
新修大阪市史第4巻	大阪市 1990
御薨子塚古墳	豊中市教育委員会 1990
新池道跡 (高槻市文化財調査概要15)	高槻市教育委員会 1990

京都府

京都府埋蔵文化財情報 第35号	御京府埋蔵文化財調査研究センター 1990
城陽市埋蔵文化財調査報告集 第20集	城陽市教育委員会 1990
城陽の文化財案内 (道跡、遺物を中心に)	城陽市教育委員会 1990
企画展 京都市の文化財 (新指定の美術工芸品)	京都市歴史資料館 1990
京都府埋蔵文化財情報 第36号	京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990
京都府埋蔵文化財情報 第37号	京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990
建都1200年にむけて第1回特別展 (第2回生涯学習フェスティバル協賛 平安京以前の京都)	京都市歴史資料館 1990

京都市歴史資料館紀要 第7号	京都市歴史資料館 1990
平成元年度京都市歴史資料館年報 No.8	京都市歴史資料館 1990
長岡京跡 長岡京遷都1200年記念	乙訓文化財事務連絡協議会編 1984
長岡京市埋蔵文化財センター年報 昭和63年度	00長岡京市埋蔵文化財センター 1990
京都府埋蔵文化財情報 第38号	00京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990

兵庫県

宝塚の文化財	宝塚市教育委員会 1989
新修神戸市史 産業経済編 1 第1次産業	神戸市 1990
尼崎市武庫庄遺跡 尼崎市文化財調査報告 第21集	尼崎市教育委員会 1990
新修神戸市史 歴史編 1 自然考古	神戸市 1989
第25回全国史跡整備市町村協議会大会 大会議事録	全国史跡整備市町村協議会大会事務局 1990

岡山県

青谷川古墳群 青谷川製鉄関連遺跡	総社市教育委員会 1990
総社市の歴史と文化財	総社市教育委員会 1990

広島県

広島市における針づくりとその技術 広島市郷土資料館調査報告書 第5集	広島市教育委員会 1990
あさづくり 広島市郷土資料館資料解説書 第5集	広島市教育委員会 1990
吉備津神社裏山遺跡の調査 芦品郡新市宮内久保田出土の土器・芦品郡新市町大森遺跡の試掘調査	新市町教育委員会 1990
広島市佐伯区五日市町所在小林遺跡A・B地点遺跡発掘調査報告 広島市の文化財 第46集	広島市教育委員会 1990
広島市遺跡分布地区 広島市の文化財 第47集	広島市教育委員会 1990
広島市安佐南区緑井町所在毘沙門台東遺跡調査報告 広島市の文化財 第48集	広島市教育委員会 1990

山口県

綾羅木川下流域の地域開発史	下関市教育委員会 1990
山口大学構内遺跡調査研究年報 VII	山口大学埋蔵文化財資料館 1990

香川県

久米池南遺跡発掘調査報告書	高松市教育委員会 1989
弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報 II	
(弘福寺領山田郡田岡関係遺跡発掘調査事業に伴う調査概要)	高松市教育委員会 1990
平木1号墳試掘調査報告書(高松市鬼無町山口所在の横穴式石室の調査)	高松市教育委員会 1990

福岡県

文明のクロスロード Museun Kyusyu 第32号	博物館等建設推進九州会議 1989
福岡市の町家	福岡市教育委員会 1990

崇福寺収蔵品目録	福岡市教育委員会	1990
峠々原古墳群	大牟田市教育委員会	1990
福岡県大牟田市大字甘木字城所在遺跡の調査		
一般県道手鑑・田隈線の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録 第1集	大牟田市教育委員会	1990
福岡県大牟田市大字高須・字杉山所在遺跡の調査	大牟田市教育委員会	1990
一般県道手鑑・田隈線の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録 第2集	大牟田市教育委員会	1990
紫川一弥生・古墳時代の風景	北九州市立考古博物館	1990
福岡市埋蔵文化財年報 Vol.3 1988年度	福岡市教育委員会	1990
福岡市早良区原遺跡4 (第12次調査の報告)(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第233集)	福岡市教育委員会	1990
福岡市有田・小田部 第11集(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第234集)	福岡市教育委員会	1990
市制百周年記念 東アジアと日本特別考古学講座講演集	福岡市埋蔵文化財センター	1990
藤崎遺跡Ⅴ 第12、13、14次調査	福岡市教育委員会	1990
原遺跡3 原遺跡群第10次調査の報告(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第215集)	福岡市教育委員会	1990
田村遺跡Ⅶ(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第216集)	福岡市教育委員会	1990
粕屋郡粕屋町戸原麦尾遺跡Ⅲ 福岡市多々良浄水場建設に伴う緊急調査 (福岡市埋蔵文化財調査報告書 第217集)	福岡市教育委員会	1990
福岡市博多区席田遺跡群(Ⅵ)(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第218集)	福岡市教育委員会	1990
アジアとの交流 鴻臚館跡出土貿易陶磁器	福岡市教育委員会	1990
福岡市の近世社寺建築	福岡市教育委員会	1990
筑前国福岡城三の丸 御殿屋敷(図録編)	福岡市教育委員会	1990
福岡市南区野間B遺跡 第3次調査(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第231集)	福岡市教育委員会	1990
福岡市入部Ⅰ(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第235集)	福岡市教育委員会	1990
脇山Ⅰ(県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告)(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第236集)	福岡市教育委員会	1990
公園関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第220集)	福岡市教育委員会	1990
橋本一丁田遺跡(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第220集)	福岡市教育委員会	1990
都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告Ⅴ(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第221集)	福岡市教育委員会	1990
那珂Ⅱ(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第222集)	福岡市教育委員会	1990
郡地・七反田遺跡 市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査 (福岡市埋蔵文化財調査報告書 第221集)	福岡市教育委員会	1990

- 国道202号線宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告1(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第224集) 福岡市教育委員会 1990
- 湯納遺跡 第9次調査(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第225集) 福岡市教育委員会 1990
- 生松台・西区野方土地地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の調査
(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第226集) 福岡市教育委員会 1990
- 比恵遺跡群(9)(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第227集) 福岡市教育委員会 1990
- 博多13博多道跡群第36次調査報告(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第228集) 福岡市教育委員会 1990
- 博多14博多道跡群第39次発掘調査概報(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第229集) 福岡市教育委員会 1990
- 博多15 博多道跡群第40次調査の概要(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第230集) 福岡市教育委員会 1990
- 正龍古墳群(宇美町文化財調査報告書 第8集) 宇美町教育委員会 1990
- 川原田・供田道跡群Ⅱ(宇美町文化財調査報告書 第9集) 宇美町教育委員会 1990
- 福岡市埋蔵文化財センター年報 第9号(平成元年1989年度) 福岡市埋蔵文化財センター 1990
- 研究紀要 第4号 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 下徳力道跡都市モノレール小倉線及び国道322号線築造工事に伴う発掘調査
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第79集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 高津尾道跡3(1区の調査)九州縦貫自動車関係文化財調査報告20
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第89集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 上清水道跡1区(奈良時代以降編)九州縦貫自動車道関係文化財調査報告21
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第90集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 上清水道跡2(IV区の調査)九州縦貫自動車道関係調査報告22
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第91集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 貫川道跡3 貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告3
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第92集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 徳力土地地区画整理事業関係調査報告3
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第93集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 島山道跡C地点 田原団地公営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第94集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 貫井出々本道跡 北九州市小倉南区中貫二丁目所在縄文時代集落跡の調査
(北九州市埋蔵文化財調査報告書 第96集) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 埋蔵文化財調査室年報6 昭和63年度 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1990
- 福岡市立歴史資料館研究報告 第14集 福岡市立歴史資料館 1990
- 九州大学文化財研究所紀要 第35号(考古学関係抜刷集) 九州大学九州文化史研究施設 1990
- 森田家寄贈資料目録 久留米市教育委員会 1990
- 稲元日焼原 宗像市文化財調査報告書 第22集 宗像市教育委員会 1989

名残Ⅲ 宗像市文化財調査報告書 第25集	宗像市教育委員会 1989
平等寺原 宗像市文化財調査報告書 第27集	宗像市教育委員会 1990
武丸町添 宗像市文化財調査報告書 第28集	宗像市教育委員会 1990
福岡市立歴史資料館年報 No17 昭和63(1988)年度	福岡市立歴史資料館 1990
文明のクロスロード Museun Kyushu (特集 文化財と国際協力) 博物館等建設推進九州会議	1990
アジア太平洋博覧会 福岡89 テーマ館展示図録	アジア太平洋博覧会協会 1989
豊前国府及び節丸西遺跡 平成元年度発掘調査概報(豊津町文化財調査報告書 第9集)	豊津町教育委員会 1990
平蔵遺跡 2 福岡県築紫郡那珂川町大字梶原字平蔵所在遺跡群の調査 (那珂川町文化財調査報告書 第22集)	那珂川町教育委員会 1990
カクチガ浦遺跡群築紫郡那珂川町大字カクチガ浦所在遺跡群の調査 (那珂川町文化財調査報告書 第23集)	那珂川町教育委員会 1990
中原遺跡群築紫郡那珂川町大字中原所在遺跡群の調査報告書 (那珂川町文化財調査報告書 第24集)	那珂川町教育委員会 1990
赤煉瓦の記 福岡市立歴史資料館の歩み	福岡市教育委員会 1990
文明のクロスロード Museun Kyushu 第34号	博物館等建設推進九州会議 1990
浦田遺跡(筑紫野市文化財調査報告書 第21集)	筑紫野市教育委員会 1990
日焼遺跡(筑紫野市文化財調査報告書 第20集)	筑紫野市教育委員会 1990
山家地区園場整備事業関係埋蔵文化財調査報告書(筑紫野市文化財調査報告書 第23集)	筑紫野市教育委員会 1990
通り浦遺跡Ⅱ(筑紫野市文化財調査報告書 第24集)	筑紫野市教育委員会 1990
太宰府条坊跡 第82次発掘調査(筑紫野市文化財調査報告書 第25集)	筑紫野市教育委員会 1990
永岡遺跡 2(筑紫野市文化財調査報告書 第26集)	筑紫野市教育委員会 1990
石井谷遺跡・こうしんのう古墳群(北九州市文化財調査報告書 第48集)	北九州市教育委員会 1990
高津尾遺跡(北九州市文化財調査報告書 第49集)	北九州市教育委員会 1990
北九州市の文化財	北九州市教育委員会 1990
佐賀県	
不動遺跡(A・B地区)鹿島市文化財調査報告 第5集	佐賀県鹿島市教育委員会 1990
不動遺跡(C地区)鹿島市文化財調査報告 第6集	佐賀県鹿島市教育委員会 1990
惣座遺跡(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 11)	佐賀県教育委員会 1990
西石動遺跡(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 12)	佐賀県教育委員会 1990
佐賀県農業基盤整備事業に係わる文化財調査報告書 8(佐賀県文化財調査報告書 第98集)	佐賀県教育委員会 1990
内野山北窯跡・東福寺古墳群・久池井B遺跡本川原遺跡 (九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 第12集)	佐賀県教育委員会 1990
来迎寺遺跡(佐賀県文化財調査報告書 第27集)	佐賀県教育委員会 1990

南宮・本村・阿高・牟田・寄村・徳永・古村遺跡

(佐賀市文化財調査報告書 第28集)

佐賀県教育委員会 1990

本村遺跡 1・2 区の調査 (佐賀市文化財調査報告書 第29集)

佐賀県教育委員会 1990

阿高遺跡 (佐賀市文化財調査報告書 第30集)

佐賀県教育委員会 1990

牟田寄遺跡 (佐賀市文化財調査報告書 第31集)

佐賀県教育委員会 1990

村徳永遺跡 E・F・G・H地区の調査 (佐賀市文化財調査報告書 第32集) 佐賀県教育委員会 1990

開成小学校内遺跡 (佐賀市文化財調査報告書 第33集)

佐賀県教育委員会 1990

市場 吉祥寺遺跡 武雄市文化財調査報告書 第22集

(南永野遺跡農業基盤整備事業に伴う発掘調査報告書)

佐賀県武雄市教育委員会 1990

天神裏遺跡 武雄市文化財調査報告書 第23集

(南永野遺跡農業基盤整備事業に伴う発掘調査報告書集)

佐賀県武雄市教育委員会 1990

長 崎 県

寄神貝塚周辺遺跡 岐宿町文化財調査報告書 第2集

長崎県岐宿町教育委員会 1990

白井川遺跡 II 東彼杵町文化財調査報告書 第4集

長崎県東彼杵町教育委員会 1990

長崎県埋蔵文化財調査集報13 (長崎県文化財調査報告書 第97集)

長崎県教育委員会 1990

九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

(長崎県文化財調査報告書 第98集)

長崎県教育委員会 1990

動乱原城史 まんがで見る島原の乱

南有馬町 1990

熊 本 県

市史研究くまとも 創刊号

熊本市 1990

湯の口横穴群 II 菊地川中流域古墳・横穴群総合調査報告書 3

山鹿市教育委員会 1988

銭亀塚古墳のほか 菊地川中流域古墳・横穴群総合調査報告書 4

山鹿市教育委員会 1989

大江東原遺跡 II 大江遺跡群内に於ける

大江市民センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

熊本市教育委員会 1990

大 分 県

五馬大坪遺跡 (大分県日田郡天瀬町五馬所在遺跡の発掘調査報告書)

天瀬町教育委員会 1989

平成2年度要覧

大分県立生涯教育センター 1990

恒松遺跡 (大分県宇佐郡安心院町大字恒松所在遺跡の発掘調査報告書) 安心院町教育委員会 1988

相原廃寺 II・木下遺跡 中津市文化財調査報告書 第8集

中津市教育委員会 1990

高松遺跡 (大分県大野郡犬飼町大寒地区所在遺跡の調査報告書)

犬飼町教育委員会 1988

市ノ久保遺跡 (大分県犬飼地区遺跡群発掘調査概報 I)

犬飼町教育委員会 1988

神宕A・C遺跡・長谷遺跡・上津尾A・B遺跡 (大分県犬飼地区遺跡群発掘調査概報 II)

犬飼町教育委員会 1989

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1989

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1990

竹田地区南部遺跡群 I

竹田市教育委員会 1990

岡藩主おたまや公園整備事業報告書 1	竹田市教育委員会 1990
史跡 岡城跡Ⅴ 平成元年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	竹田市教育委員会 1990
柳牟礼城跡と関連遺跡発掘調査概報 Ⅱ	佐伯市教育委員会 1990
宇佐地区遺跡群発掘調査概報	
京徳遺跡 2 次・小武遺跡 6 次・高森遺跡 3 次・虚空蔵寺跡 5 次調査	宇佐市教育委員会 1990
向山・下林遺跡 一般国道10号宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	
	宇佐市教育委員会 1990
杵築市埋蔵文化財調査報告書 第2集	杵築市教育委員会 1990
杵築地区遺跡群発掘調査概報 Ⅰ	杵築市教育委員会 1990
日田地区遺跡群発掘調査概報 Ⅳ(朝日宮原遺跡 Ⅱ・平島遺跡 Ⅱ・小迫辻原遺跡 Ⅱ)	
	日田市教育委員会 1989
日田地区遺跡群発掘調査概報 Ⅴ(一丁田遺跡・町野原遺跡・長者原遺跡 Ⅲ・小迫辻原遺跡 Ⅲ)	
	日田市教育委員会 1990
小迫辻原遺跡発掘調査概報	日田市教育委員会 1990
国東地区遺跡群発掘調査概報 Ⅰ(由井ヶ迫製鉄炉跡・安近炭窯跡)	国東町教育委員会 1990
陣箱遺跡(大分県大野郡三重町所在の弥生時代後期住居跡の調査)	三重町教育委員会 1987
豊後高田市の文化財	豊後高田市文化財を守る会 1988
豊後国都甲荘 3 国東半島在國村落遺跡詳細分布調査概報 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1990
平成元年度全国地熱資源総合調査 第3次広域熱水流動系の調査 鶴見岳地域地熱調査成果図集	
	新エネルギー産業 技術総合開発機構 1990
平成元年度全国地熱資源総合調査(第3次)	
広域熱水流動調査鶴見岳地域火山分布年代調査報告書	新エネルギー産業 技術総合開発機構 1990
平成元年度全国地熱資源総合調査(第3次)流体地化学調査報告書	
	新エネルギー産業 技術総合開発機構 1990
平成元年度全国地熱資源総合調査(第3次)精密動調査(データの数値化及び相関解析)	
	新エネルギー産業 技術総合開発機構 1990
庄内町石造文化財写真集(初版)	岡田靖峰 1990
大分市発足25周年記念 福田平八郎・高山辰雄展	大分市管財課 1988
佐伯氏一族の興亡 中世の秋に拾う	佐伯市教育委員会 1989
佐伯市史	佐伯市 1974
佐伯文庫の蔵書目	梅本幸吉 1984
郷土大分の先覚者 中巻	郷土大分の先覚者刊行会 1981
郷土大分の先覚者 下巻	大分県教育委員会 1982
大分県の文化財	大分県教育委員会 1965
続大分県の文化財	大分県教育委員会 1969
やきもの一豊のくらしと文化一図録	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1990

宇佐国東の寺院と文化財	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1990
田篠台遺跡	臼杵市教育委員会	1990
制乳場地区・堂ノキ地区発掘概報	臼杵市教育委員会	1990
鶴崎地方の文人書画展	鶴崎商工青年部	1990
庄内町誌	庄内町	1990
飯田二反田遺跡 一般国道10号線宇佐別府道路建設に伴う発掘調査概報Ⅰ	大分県教育委員会	1989
笠松・尾畑・桐ヶ迫・峠添・正布迫・柳沢・向山・下林遺跡 一般国道10号線宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	大分県教育委員会	1989
植田市遺跡Ⅱ 七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査概報	大分県教育委員会	1990
草場第二遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書①	大分県教育委員会	1990
植田市遺跡Ⅲ 七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査概報	大分県教育委員会	1990
大根川遺跡・向野遺跡 一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査概報	大分県教育委員会	1990
横山・尾畑・峯添・正布迫・柳沢・松ヶ平遺跡 一般国道10号線宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	大分県教育委員会	1990
一般国道 210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査概報	大分県教育委員会	1990
飯田二反田・小原南・井出ノ原・上ノ原遺跡 一般国道10号線宇佐別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	大分県教育委員会	1990
若杉・十文字原・ふいが城遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書②	大分県教育委員会	1990

宮 崎 県

柿木原地下式横穴56-1号・江田原第1遺跡 宮崎市文化財調査報告書	宮崎市教育委員会	1989
金剛時原第1、2遺跡 県営農林漁業揮発油財源身替農道整備事業		
瓜生野地区に伴う発掘調査報告書	宮崎市教育委員会	1990
宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書Ⅱ（リゾート地区を中心として）	宮崎市教育委員会	1990
蓮ヶ池横穴群保存整備事業概報Ⅳ（平成元年度計調査概報）	宮崎市教育委員会	1990
水落遺跡 小林市文化財調査報告書 第1集	小林市教育委員会	1990
九州縦貫自動車道（人吉～えびの間）建設工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書		
天神後第二遺跡・妙見遺跡・野久首遺跡・平原遺跡・彦川遺跡	宮崎県教育委員会	1990
平成元年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	宮崎県教育委員会	1990
西ノ原第2・上南方地区・下大五郎・長江浦地区・八重地区・三幸ヶ農業地区遺跡	宮崎県教育委員会	1990
林遺跡 一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書	宮崎県教育委員会	1990
宮崎県文化財調査報告書 第33集	宮崎県教育委員会	1990
国衛・郡衛・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅱ	宮崎県教育委員会	1990
今井野遺跡 延岡市文化財調査報告書 第4集	延岡市教育委員会	1990

- 片田遺跡(概報)延岡市文化財調査報告書 第5集 延岡市教育委員会 1990
- 新村遺跡・高山遺跡・東城原第1、2、3遺跡 野尻町文化財調査報告書 第4集
宮崎県西諸県郡野尻町教育委員会 1990
- 新屋城城址遺跡漆野原県営園場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
宮崎県西諸県郡野尻町教育委員会 1990
- 南郷町遺跡詳細分布調査報告書 南郷町文化財調査報告書 第1集
宮崎県南郷町南郷町教育委員会 1990
- 図録日向の遺跡展-学園都市調査10年の歩み 宮崎県総合博物館 1991
- 長藪遺跡 田野町文化財調査報告書第6集 田野町教育委員会 1989
- 八重地区遺跡 田野町文化財調査報告書第7集 田野町教育委員会 1989
- 前畑第1遺跡 田野町文化財調査報告書第9集 田野町教育委員会 1990
- 田野町遺跡詳細分布調査報告書 田野町遺跡詳細分布調査報告書第10集 田野町教育委員会 1990
- 鹿児島県**
- 横井竹ノ山遺跡 鹿児島市埋蔵遺跡詳細分布発掘調査報告書(10) 鹿児島市教育委員会 1990
- 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 V 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1990
- 鹿児島市史 IV 鹿児島市 1990
- 上屋久町郷土誌 上屋久町教育委員会 1984



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐみ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の道徳を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年5月26日決定）

大分市埋蔵文化財調査年報 2

1992

発行日

平成3年12月31日

編集・発行

大分市教育委員会社会教育課文化財室

大分市荷揚町2番31号

〒870 (0975) 34-6111
